

『シュウマイ』 作：ポチ子

私さ、今日シュウマイを食べれば幸せになれるって思ってた。

だから、わざわざ蒸し器まで買ってさ、

この日のために生きてたくらいの気持ちでいたの。

でも、今、実際に食べてるシュウマイは、

別に人生を変えるほどのものじゃないわけ。

確かに美味しいけど、

もう何もいらなくらい、

死んでも後悔しないくらいの幸せを与えてくれたかって聞かれたら、

全然そんなことなくて。

よくよく考えたら当たり前なんだけど。

ただのシュウマイだもん。

でもさあ、私って普段から、

これさえあればとか、

これさえ変わればとか、

よく思っちゃうわけ。

それがすごく重要な気がして、

それさえあれば自分の全てが満たされるような気がして、

手に入れようと必死になるけどさ。

手に入れたところで、きつとなにも変わらない。

だから、さっきまで、

これさえあればって思った事も忘れて、

また違う何かを求めたりする。

人によってはただのわがままに見えるけど、

言っている私自身は真剣なの。

いつまでも届かない幸せを、

次は絶対に手に入れるんだって、必死に頑張る。

私はそんなことを、永遠に繰り返してるだけなのかもしれないなあ。

— 終わり —